

Oracle® Application Server

クイック・インストレーション・ガイド

10g リリース 2 (10.1.2) for HP Tru64 UNIX

E05142-01

2007 年 3 月

ORACLE®

原本名 : Oracle Application Server Quick Installation Guide 10g Release 2 (10.1.2) for hp Tru64 UNIX

原本部品番号 : B25860-01

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation, and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありえます。

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとの目的で使用する場合、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましたも、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

はじめに

このマニュアルで説明されている各種サービスは日本オラクル社から提供されるサービスです。サービスは、製品をご購入された日本オラクル正規代理店各社から提供される場合もありますが、サービス内容はこのマニュアルの説明と異なることがあります。

このマニュアルでは、次に示す **Oracle Application Server** のインストール・タイプのインストール方法について説明します。

- J2EE and Web Cache 中間層
- OracleAS Infrastructure
- Portal and Wireless 中間層
- Forms and Reports 中間層

このマニュアルの内容

- ご注文内容の確認
- このマニュアルで説明するインストール・タイプ
- 要件
- インストーラの起動
- J2EE and Web Cache (Java 開発者トポロジ) のインストール
- Portal and Wireless または Forms and Reports 開発者トポロジのインストール (OracleAS Infrastructure を含む)

- 「ようこそ」 ページへのアクセス
- 既存の Oracle データベースへの OracleAS Metadata Repository のインストール
- 追加情報
- その他の情報
- ドキュメントのアクセシビリティについて

1 ご注文内容の確認

メディア・パック受領後、ただちに同梱の Packing List をもとにパッケージ内容物を確認してください。破損、欠品、不明な点などのお問合せは、本製品をご購入された日本オラクル正規代理店、もしくは Oracle Direct までお寄せください。

メディア・パックには、このマニュアルの他に次の製品が同梱されています。

- 製品メディア

製品メディアには、製品をインストールするためのソフトウェアおよび README ファイルが含まれています。

- Start Here CD (赤いレーベル)

Start Here CD には、インストール・マニュアル、リリース・ノート、お役に立つインターネット・リンクおよびメディア・パックに関する情報が含まれています。

- Oracle Application Server JP Documentation Library

Oracle Application Server JP Documentation Library には、オラクル製品のオンライン・ドキュメントが含まれています。

注意： メディア・パックによって、Start Here CD や Oracle Application Server JP Documentation Library が同梱されていない製品があります。Packing List を参照して確認してください。

2 このマニュアルで説明するインストール・タイプ

このマニュアルでは、次に示す構成で Oracle Application Server をインストールするユーザーを対象にしています。

- **Java Developer トポロジ**: Java 開発者用です。このトポロジでは、**J2EE and Web Cache** 中間層がインストールされ、ここでアプリケーションをデプロイできます。
- **Portal and Wireless 開発者トポロジ**: J2EE and Web Cache 機能に加えて、OracleAS Portal、Oracle Application Server Wireless、Oracle Internet Directory または Oracle Application Server Single Sign-On 機能を使用する Java 開発者用です。このトポロジによって、**Portal and Wireless** 中間層および **OracleAS Infrastructure** がインストールされます。
- **Forms and Reports 開発者トポロジ**: J2EE and Web Cache 機能および Portal and Wireless 機能に加えて、OracleAS Personalization、OracleAS Reports Services または OracleAS Forms Services 機能を使用する開発者用です。このトポロジによって、**Forms and Reports** 中間層および **OracleAS Infrastructure** がインストールされます。

より複雑なトポロジが必要な場合の詳細なインストール手順については、Oracle Application Server のインストールレーション・ガイドを参照してください。

Oracle Application Server をインストールする前に、最新情報について、Oracle Application Server のリリース・ノートを参照してください。

3 要件

ご使用のコンピュータが、次の最小要件を満たしていることを確認してください。

- 第 3.1 項「システム要件の確認」
- 第 3.2 項「ソフトウェア要件の確認」
- 第 3.3 項「OracleAS Web Cache に必要なカーネル・パラメータの確認」
- 第 3.4 項「OracleAS Metadata Repository に必要なカーネル・パラメータの設定の確認」
- 第 3.5 項「インベントリ・ディレクトリのオペレーティング・システム・グループの作成」
- 第 3.6 項「データベース管理者のオペレーティング・システム・グループの作成」
- 第 3.7 項「オペレーティング・システム・ユーザーの作成」
- 第 3.8 項「環境変数の確認」
- 第 3.9 項「ポート 1521 が使用されているかどうかの確認」

3.1 システム要件の確認

次の要件を満たしている必要があります。

サポートされているオペレーティング・システム

Patch Kit 2 以上が適用された HP Tru64 UNIX V5.1B

その他のシステム要件

次の表に、その他のシステム要件を示します。

表 1 最小システム要件

	J2EE and Web Cache	Portal and Wireless	Forms and Reports	OracleAS Infrastructure
メモリー (後述の注意 (1) を参照)	512MB	1GB	1GB	1GB
ディスク領域	1.5GB	1.2GB	2.5GB	3.7GB (後述の注意 (2) を参照)
TEMP ディレク トリ内の領域	400MB	400MB	400MB	400MB
スワップ領域	1.5GB	1.5GB	1.5GB	1.5GB

注意：

(1) Forms and Reports または Portal and Wireless を、OracleAS Infrastructure と同一のコンピュータにインストールする場合は、少なくとも 1GB ～ 1.3GB のメモリーが必要です。

(2) OracleAS Infrastructure のインストール先ディスクとは異なるディスクに OracleAS Metadata Repository データベースのデータ・ファイルをインストールできます。この場合は、データ・ファイル用に 1GB 以上の空きディスク領域を確保してください。

これらの要件を確認するには、次の手順を実行します。

1. 物理 RAM のサイズを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# /bin/vmstat -P | grep "Total Physical Memory"
```

2. 空きディスク領域の大きさを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
prompt> df -k dir
```

dir は、Oracle ホーム・ディレクトリに置き換えてください。Oracle ホーム・ディレクトリがない場合は、親ディレクトリに置き換えてください。たとえば、Oracle Application Server を /opt/oracle/infra にインストールする場合、*dir* は /opt/oracle または /opt/oracle/infra に置き換えます。

3. 使用可能なスワップ領域の大きさを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# /sbin/swapon -s
```

必要に応じて、追加のスワップ領域を構成する方法について、ご使用のオペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。

3.2 ソフトウェア要件の確認

HP Tru64 UNIX のソフトウェア要件を確認する場合は、次の項を参照してください。

- 第 3.2.1 項「HP Tru64 UNIX のソフトウェア要件」

注意： Oracle Application Server 10g リリース 2 (10.1.2) は、32 ビットのアプリケーションとして動作することが保証されています。

サポートされているオペレーティング・システム固有のソフトウェア (JDK のバージョンなど) やオペレーティング・システムのバージョンの最新のリストは、**Oracle MetaLink** (<http://metalink.oracle.com>) を確認してください。

3.2.1 HP Tru64 UNIX のソフトウェア要件 HP Tru64 UNIX システムに Oracle Application Server をインストールする前に、次の手順を実行します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. HP Tru64 UNIX がインストールされていることを確認します。

```
# /usr/sbin/sizer -v
```

```
Compaq Tru64 UNIX V5.1B (Rev. 2650); Mon Nov 3 10:13:28 PST 200
```

3. 次のパッチ・キットがインストールされていることを確認します。

Tru64 UNIX V5.1B Patch Kit 2 以上

T64V51BB22AS0002-20030415

次のパッチ・キットも必要です。

- _OtsMove の HP Tru64 UNIX 5.1B PK2 BL22 Fixes for AdvFS Panic。
考えられるメモリーの破損：

T64KIT0020879-V51BB22-E-20031125

- HP Tru64 UNIX - IP マルチキャスト・パケットの問題：

T64KIT0019662-V51BB22-E-20030818

- HP Tru64 UNIX V5.1B PK2 (BL22) ERP キット - 複数アプリケーションの修正では、同じファイルに排他ロックが付与されることもあります。

T64KIT0021665-V51BB22-E-20040220

- Tru64 UNIX V5.1B PK2/BL22 Early Release Patch - 潜在的なアプリケーション・コア・ダンプの修正:

T64KIT0021681-V51BB22-E-20040223

注意: これらのパッチについては、より新しいバージョンがシステムにインストールされている場合があります。パッチがインストールされていない場合、ここに記載したバージョンをインストールする前に、より新しいバージョンがインストールされているかどうか確認してください。

4. 次のオペレーティング・システムのサブセットが存在するか確認します。

- OSFCMPLRS
- OSFLIBA
- OSFPGMR
- OSFSER
- OSFX11

5. 次の motif パッケージが存在するか確認します。

Oracle Application Server 10g (10.1.2.0.2) を実行するには、Motif 2.1 の特別バージョンが必要です。必要な Motif のバージョンのダウンロードの詳細は、次を参照してください。

<http://h18012.www1.hp.com/java/download/unix/1.4.2/index.html>

12 Oracle Application Server クイック・インストレーション・ガイド

注意: このダウンロード・サイトは変更される場合があります。最新のダウンロード・サイトについては、OTN の Oracle Application Server 10g のリリース・ノートで、インストール、移行、およびアップグレードの問題に関する章を参照してください。

3.3 OracleAS Web Cache に必要なカーネル・パラメータの確認

この項の内容は、OracleAS Web Cache をインストールする場合に該当します。

- J2EE and Web Cache 中間層をインストールする場合、OracleAS Web Cache コンポーネントは、オプションです。
- Portal and Wireless または Forms and Reports 中間層をインストールする場合、OracleAS Web Cache コンポーネントは常にインストールされます。
- 次のコマンドを実行して、`rlim_fd_max` カーネル・パラメータが、65536 以上に設定されていることを確認します。

```
prompt> ulimit -Hn
```

3.4 OracleAS Metadata Repository に必要なカーネル・パラメータの設定の確認

次の表に示すカーネル・サブシステム属性が、推奨値以上に設定されていることを確認します。値を検証および設定する方法については、表の後の手順で説明します。

サブシステム	属性	推奨値
ipc	shm_max	4278190080 (4GB - 16MB)
	shm_min	1
	shm_min	1
	shm_mni	256
	shm_seg	256
	ssm_threshold	rad_gh_regions[n] または gh_chunks 属性が vm サブシステムに設定されている場合のみ、この属性を 0 に設定します。それ以外は、この値を変更しないでください。

サブシステム	属性	推奨値
proc	exec_disable_arg_limit	1
	per_proc_stack_size	8388608 (8MB) ¹
	max_per_proc_stack_size	33554432 (32MB) ¹
	per_proc_data_size	335544320 (320MB)
	max_per_proc_data_size	335544320 (320MB)
	max_per_proc_address_space	RAM のサイズまたは 1073741824 (1GB) の いずれか大きい値。
	per_proc_address_space	RAM のサイズまたは 1073741824 (1GB) の いずれか大きい値。
rdg	msg_size	32768
	max_objs	5120
	max_async_req	256

サブシステム	属性	推奨値
	max_sessions	500 (または、20+ システムのすべてのデータベースの PROCESSES 初期化パラメータの値 (この値の方が大きい場合))
	rdg_max_auto_msg_wires	0
	rdg_auto_msg_wires	0
rt	aio_task_max_num	8193
vfs	fifo_do_adaptive	0
vm	new_wire_method	0

¹ このパラメータのサポートされる最大値は 512MB です。

注意: カーネル・サブシステム属性の現在の値がこの表に示す値より大きい場合は (推奨値が 0 の属性を除く)、その属性の値を変更しないでください。

これらのカーネル・サブシステム属性に指定されている現在の値を確認し、必要に応じて変更するには、次の手順を実行します。

1. サブシステム属性の現在の値を確認するには、次のようにコマンドを入力します。

```
# /sbin/sysconfig -q subsystem
```

たとえば、**ipc** サブシステムの属性値を確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# /sbin/sysconfig -q ipc
```

2. 現在の値を変更する場合は、次の手順を実行します。

- a. たとえば、`/etc/sysconfigtab` ファイルのバックアップ・コピーを作成します。

```
# cp /etc/sysconfigtab /etc/sysconfigtab.orig
```

- b. テキスト・エディタを使用して次のようなファイルを作成し、変更するサブシステムと属性を指定します。

```
ipc:
    shm_max = 4278190080
    shm_min = 1
    shm_mni = 256
    shm_seg = 128
```

```
proc:  
    exec_disable_arg_limit = 1  
    per_proc_stack_size = 8388608  
    max_per_proc_stack_size = 33554432  
    per_proc_data_size = 335544320  
    max_per_proc_data_size = 335544320  
    max_per_proc_address_space = 4294967296  
    per_proc_address_space = 4294967296
```

- c.** 次のようなコマンドを入力して、サブシステム属性を `/etc/sysconfigtab` ファイルに追加します。

```
# /sbin/sysconfigdb -m -f filename
```

この例の `filename` は、手順 **b** で作成したファイル名を示します。

- d.** 次のコマンドを入力して、システムを再起動します。

```
# /sbin/shutdown -r now
```

- e.** システムを再起動したら、ログインしてユーザーを `root` に切り替えます。

3.5 インベントリ・ディレクトリのオペレーティング・システム・グループの作成

コンピュータに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、インベントリ・ディレクトリにオペレーティング・システム・グループを作成します。インストーラによってインベントリ・ディレクトリにファイルが作成され、コンピュータにインストールされた Oracle 製品が追跡されます。

このマニュアルでは、このグループの名前に `oinstall` を使用します。

第 3.7 項「オペレーティング・システム・ユーザーの作成」で、オペレーティング・システム・ユーザーを作成し、このグループをユーザーのプライマリ・グループに設定します。

インベントリ・ディレクトリ用に別のグループを用意することによって、様々なユーザーがコンピュータに Oracle 製品をインストールできるようにします。ユーザーは、インベントリ・ディレクトリへの書込み権限が必要です。これは、`oinstall` グループに所属します。

インベントリ・ディレクトリのデフォルトの名前は `oraInventory` です。

コンピュータにインベントリ・ディレクトリがすでにあるかどうかは不明な場合は、`/etc/oraInst.loc` ファイルを参照します。このファイルには、インベントリ・ディレクトリの場所と、それを所有するグループが一覧表示されます。ファイルがない場合は、そのコンピュータには Oracle 製品がインストールされていません。

グループの作成方法

oinstall グループを作成するには、root ユーザーで次のように入力します。

```
# /usr/sbin/groupadd oinstall
```

3.6 データベース管理者のオペレーティング・システム・グループの作成

前述の項と同じ手順で、「dba」と呼ばれるオペレーティング・システム・グループを作成します。次の手順で、オペレーティング・システム・ユーザーを作成すると、この dba グループは、ユーザーのセカンダリ・グループに設定されます。

3.7 オペレーティング・システム・ユーザーの作成

Oracle 製品のインストールとアップグレードを行うオペレーティング・システム・ユーザーを作成します。このマニュアルでは、このユーザーを oracle と呼びます。

ユーザーの作成方法

oinstall グループの一部として oracle オペレーティング・システム・ユーザーを作成するには、root ユーザーで次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/useradd -g oinstall oracle
```

オペレーティング・システム・ユーザーおよびグループの詳細は、オペレーティング・システムのドキュメントを参照するか、またはシステム管理者に連絡してください。

次のコマンドを入力して `oracle` ユーザーのパスワードを設定し、画面の指示に従います。

```
# passwd oracle
```

`ORACLE_HOME` の親ディレクトリのグループ ID は、`oracle` ユーザーのプライマリ・グループ ID と一致する必要があります。

3.8 環境変数の確認

Oracle Application Server をインストールするオペレーティング・システム・ユーザーは、次の環境変数を設定（または設定解除）する必要があります。

表 2 環境変数

環境変数	設定または設定解除
DISPLAY	インストーラのウィンドウを表示するモニターを設定します。
ORACLE_HOME	設定しないでください。
ORACLE_SID	設定しないでください。

表 2 環境変数 (続き)

環境変数	設定または設定解除
TNS_ADMIN	設定しないでください。
PATH、CLASSPATH および LD_LIBRARY_PATH	Oracle ホーム・ディレクトリ内のディレクトリを参照するパスは含めないでください。
TMP	任意です。設定解除した場合、デフォルトで /tmp に設定されます。
ORA_NLS33	設定しないでください。
LD_BIND_NOW	設定しないでください。

3.8.1 環境変数の設定方法 この項では、環境変数を設定する方法を説明します。

C シェルの場合：

```
% setenv variable_name value
```

例 (C シェル)：

```
% setenv DISPLAY test.mycompany.com:0.0
```

Bourne または Korn シェルの場合：

```
$ variable_name=value; export variable_name
```

例（Bourne または Korn シェル）：

```
$ DISPLAY=test.mydomain.com:0.0; export DISPLAY
```

3.8.2 環境変数のヒント この項では、環境変数を設定する場合の注意事項を説明します。

- 環境変数を `.profile` ファイルに設定すると、変数が読み取られない場合があります。環境変数に正しい値が設定されていることを確認するには、インストーラを実行するシェル内で値を確認します。
- 環境変数の値をチェックするには、`env` コマンドを使用します。これにより、現在定義されているすべての環境変数とそれらの値が表示されます。

% env

- `su` コマンドを使用してユーザーを切り替える（たとえば、`root` ユーザーから `oracle` ユーザーへ切り替える）場合、新しいユーザーは環境変数を確認します。環境変数は、新しいユーザーには渡されない場合がありますからです。これは、`su` に、`-` パラメータを付けて（`su - user`）実行した場合でも発生する可能性があります。

```
# /* root user */  
# su - oracle  
% env
```

3.9 ポート 1521 が使用されているかどうかの確認

この項の内容は、OracleAS Infrastructure をインストールする場合にのみ該当します。

OracleAS Infrastructure では、Oracle データベースがインストールされ、デフォルトでポート 1521 が使用されます。ポート 1521 が使用されているかどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
prompt> netstat -an | grep 1521
```

ポート 1521 がサード・パーティのアプリケーションによって使用されている場合は、別のポートを使用するようにアプリケーションを構成する必要があります。

ポート 1521 が既存の Oracle データベース・リスナーで使用されている場合は、OracleAS Infrastructure をインストールする前にリスナーを停止する必要があります。

詳細は、Oracle Application Server のインストレーション・ガイドを参照してください。

4 インストーラの起動

インストーラを起動するには、次の手順を実行します。

1. Administrators グループのメンバーであるユーザーとしてコンピュータにログインします。

2. ディスクを挿入します。

CD-ROM の場合 : Oracle Application Server Disk 1 を挿入します。

DVD-ROM の場合 : Oracle Application Server DVD-ROM を挿入します。

3. コンピュータに自動マウント機能がない場合は、CD-ROM または DVD-ROM を手動でマウントする手順について、[第 4.1 項「CD-ROM または DVD-ROM のマウント」](#)を参照してください。

ディスクが HP Tru64 UNIX システムに自動的にマウントされたかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# ls /mnt/cdrom
```

ディスクが HP Tru64 UNIX システムに自動的にマウントされたかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# ls /media/cdrom
```

4. インストーラを起動します。HP Tru64 UNIX の場合、マウント・ポイントは /mnt/cdrom、HP Tru64 UNIX Enterprise Server の場合は /media/cdrom です。

注意: インストーラは、マウント・ポイント・ディレクトリから起動しないでください。次に示す「cd」コマンドは、インストーラがマウント・ポイントから起動されないように、カレント・ディレクトリをホーム・ディレクトリに変更します。

CD-ROM:

```
prompt> cd
prompt> mountpoint/1012disk1/runInstaller
```

DVD-ROM:

```
prompt> cd
prompt> mountpoint/application_server/runInstaller
```

これによって Oracle Universal Installer が起動され、ここから Oracle Application Server をインストールできます。

4.1 CD-ROM または DVD-ROM のマウント

コンピュータが CD-ROM または DVD-ROM を自動マウントしない場合は、次の手順を実行します。

1. ディスク・ドライブに CD-ROM または DVD-ROM を挿入します。

2. root ユーザーとしてログインし、すべてのユーザーがアクセスできるディスクのマウント・ポイント・ディレクトリを作成します。

```
% su
```

```
Password:
```

```
# mkdir /cdrom
```

```
# chmod 777 /cdrom
```

3. ディスクのマウント・ポイント・ディレクトリにディスク・ドライブをマウントします。

HP Tru64 UNIX システムの場合は、次のように入力します。

```
# mount -t iso9660 /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

4. root アカウントを終了します。

```
# exit
```

5 J2EE and Web Cache (Java 開発者トポロジ) のインストール

このトポロジによって、J2EE and Web Cache 中間層がインストールされ、次のコンポーネントが提供されます。

- Oracle HTTP Server: これは Web サーバーです。
- Oracle Application Server Containers for J2EE (OC4J) :これは、J2EE アプリケーションのデプロイおよびテストに使用できる J2EE コンテナです。
- OracleAS Web Cache: このコンポーネントは、オブジェクトをキャッシュして Oracle HTTP Server の負荷を削減し、パフォーマンスを向上させます。

J2EE and Web Cache 中間層をインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストーラを起動します。詳細は、[第4章「インストーラの起動」](#)を参照してください。
2. 「ようこそ」画面
「次へ」をクリックします。

3. コンピュータに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、インストーラによって次の画面が表示されます。

a. 「インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定」画面

「**インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください**」：インベントリ・ディレクトリへのフルパスを入力します。このディレクトリは、製品ファイル用の Oracle ホーム・ディレクトリとは異なります。

例：/opt/oracle/oraInventory

「**オペレーティング・システム・グループ名の指定**」：インベントリ・ディレクトリへの書込み権限を持つオペレーティング・システム・グループを選択します。

例：oinstall

「**次へ**」をクリックします。

b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ

プロンプトが表示されたら、異なるシェルで root ユーザーとして orainstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレクトリにあります。

スクリプトを実行した後で、「**続行**」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面

「名前」: この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例: OH_J2EE

「パス」: インストール先のディレクトリへのフルパスを入力します。これは Oracle ホームです。インストール先ディレクトリが存在しない場合は、インストーラによって作成されます。

例: /opt/ora_j2ee

「次へ」をクリックします。

5. 「インストールする製品の選択」画面

「Oracle Application Server 10g」を選択し、「次へ」をクリックします。

6. 「インストール・タイプの選択」画面

「J2EE and Web Cache」を選択し、「次へ」をクリックします。

7. 「製品固有の前提条件のチェック」画面

システムがこの画面に表示される要件を満たしていることを確認し、「次へ」をクリックします。システムが要件を満たしていない場合は、警告が表示されます。カーネル・パラメータを変更する必要がある場合は、「再試行」をクリックしても操作を続行できません。インストーラを終了して、インストールを再実行します。

30 Oracle Application Server クイック・インストール・ガイド

8. 「インストール前の要件の確認」画面

この画面に表示される要件を満たしていることを確認して、すべてのチェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。

9. 「構成オプションの選択」画面

この Oracle Application Server インスタンスでキャッシュ機能を使用する場合は、「**Oracle Application Server 10g Web Cache**」を選択します。

「**Oracle Application Server 10g Farm Repository**」は選択しないでください。

「**Identity Management Access**」は選択しないでください。

「次へ」をクリックします。

10. 「ポート構成オプションの指定」画面

「自動」を選択し、「次へ」をクリックします。

11. 「インスタンス名と ias_admin パスワードの指定」画面

「**インスタンス名**」：このインスタンスの名前を入力します。インスタンス名には、英数字および _ (アンダースコア) を使用できます。1 つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例：J2EE

「**ias_admin パスワード**」および「**パスワードの確認**」：ias_admin ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは 5 文字以上で、そのうちの 1 文字は数字にする必要があります。

「**次へ**」をクリックします。

12. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「**インストール**」をクリックします。インストーラによって、ファイルがインストールされます。

13. root.sh の実行ダイアログ

注意：このスクリプトは、ダイアログが表示されるまで実行しないでください。

別のウィンドウで root ユーザーとしてログインし、root.sh スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

root.sh スクリプトを実行した後で、「**OK**」をクリックします。

14. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、Oracle Application Server コンポーネントを構成する Configuration Assistant の進捗状況が表示されます。

15. 「インストールの終了」画面

「**終了**」をクリックして、インストーラを終了します。

6 Portal and Wireless または Forms and Reports 開発者トポロジのインストール (OracleAS Infrastructure を含む)

これらのトポロジによって、OracleAS Portal、Oracle Application Server Wireless および OracleBI Discoverer などのコンポーネントを使用するアプリケーションをデプロイできるようになります。

Portal and Wireless 開発者トポロジを設定するには、次のものをインストールする必要があります。

1. OracleAS Infrastructure
2. Portal and Wireless 中間層

Forms and Reports 開発者トポロジを設定するには、次のものをインストールする必要があります。

1. OracleAS Infrastructure
2. Forms and Reports 中間層

Portal and Wireless および Forms and Reports 中間層は、OracleAS Infrastructure のサービスを使用するため、最初に OracleAS Infrastructure をインストールする必要があります。

ヒント: OracleAS Infrastructure と、Portal and Wireless または Forms and Reports 中間層を異なるコンピュータにインストールできます。

6.1 OracleAS Infrastructure のインストール

新しいデータベースと新しい Oracle Internet Directory を使用して OracleAS Infrastructure をインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストーラを起動します。詳細は、[第 4 章「インストーラの起動」](#)を参照してください。

2. 「ようこそ」画面

「**次へ**」をクリックします。

3. コンピュータに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、インストーラによって次の画面が表示されます。

- a. 「インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定」画面

「**インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください**」：インベントリ・ディレクトリへのフルパスを入力します。このディレクトリは、製品ファイル用の Oracle ホーム・ディレクトリとは異なります。

例：/opt/oracle/oraInventory

「**オペレーティング・システム・グループ名の指定**」：インベントリ・ディレクトリへの書込み権限を持つオペレーティング・システム・グループを選択します。

例：oinstall

「**次へ**」をクリックします。

b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ

プロンプトが表示されたら、異なるシェルで root ユーザーとして orainstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレクトリにあります。

スクリプトを実行した後で、「**続行**」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面

「**名前**」：この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例：OH_INFRA

「**パス**」：インストール先のディレクトリへのフルパスを入力します。これは Oracle ホームです。インストール先ディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer によって作成されます。

例：/opt/oracle/oraInfra

「**次へ**」をクリックします。

5. 「インストールする製品の選択」画面

「**OracleAS Infrastructure**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

6. 「インストール・タイプの選択」画面

「**Identity Management and OracleAS Metadata Repository**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

7. 「製品固有の前提条件のチェック」画面

システムがこの画面に表示される要件を満たしていることを確認し、「次へ」をクリックします。システムが要件を満たしていない場合は、警告が表示されます。カーネル・パラメータを変更する必要がある場合は、「再試行」をクリックしても操作を続行できません。インストールを終了して、インストールを再実行します。

8. 「インストール前の要件の確認」画面

この画面に表示される要件を満たしていることを確認して、すべてのチェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。

9. 「構成オプションの選択」画面

「Oracle Internet Directory」を選択します。

「OracleAS Single Sign-On」を選択します。

「OracleAS Delegated Administration Service」を選択します。

「OracleAS Directory Integration and Provisioning」を選択します。

「OracleAS Certificate Authority」は選択しないでください。

「高可用性およびレプリケーション」は選択しないでください。

「次へ」をクリックします。

10. 「ポート構成オプションの指定」画面

「自動」を選択し、「次へ」をクリックします。

11. 「Internet Directory のネームスペースの指定」画面

「推奨ネームスペース」を選択し、「次へ」をクリックします。

12. 「データベース構成オプションの指定」画面

「グローバル・データベース名」: OracleAS Metadata Repository データベースの名前を入力し、ドメイン名をデータベース名に追加します。

グローバル・データベース名のデータベース名の部分は、次のように指定します。

- 英数字のみを使用できます。
- 8文字以下で指定する必要があります。
- 大文字の「PORT」または「HOST」という単語は使用できません。これらの単語を使用する必要がある場合は、小文字を使用してください。

グローバル・データベース名のドメイン名の部分は、次のように指定します。

- 英数字、_ (アンダースコア)、- (マイナス記号) および # (番号記号) を使用できます。
- 128文字以下で指定する必要があります。

例: orcl.yourcompany.com

「**SID**」: OracleAS Metadata Repository データベースのシステム識別子を入力します。通常、これはグローバル・データベース名ですが、ドメイン名は含めません。**SID** は、すべてのデータベースで一意である必要があります。

この **SID** 名には、前述したグローバル・データベース名のデータベース名の部分と同じ制限事項があります。

例: orcl

「**データベース・キャラクタ・セットの選択**」: データベースに使用するキャラクタ・セットを選択します。

「**データベース・ファイルの場所**」: データファイル・ディレクトリの親ディレクトリへのフルパスを入力します。このディレクトリはすでに存在している必要があり、このディレクトリへの書込み権限を所有している必要があります。

インストーラによって、指定したパスのサブディレクトリにデータファイルがインストールされます。インストーラは、サブディレクトリの名前にデータベース名を使用します。たとえば、グローバル・データベース名に `orcl.yourcompany.com` と指定し、データベース・ファイルの場所に `/data/dbfiles` と指定すると、インストーラは、次のディレクトリにデータベース・ファイルを格納します。
`/data/dbfiles/orcl`

ディレクトリを配置するファイル・システムには、1.3GB 以上の空きディスク領域が必要です。格納するデータ量に応じて、本番データベース用に追加のディスク領域が必要です。

「次へ」をクリックします。

13. 「データベース・スキーマのパスワードの指定」画面

データベース管理ユーザーのパスワードを設定します。これは、データベース管理に使用する権限付きアカウントです。すべてのユーザーに同じパスワードを使用することも、ユーザーごとに異なるパスワードを使用することもできます。

「次へ」をクリックします。

14. 「インスタンス名と `ias_admin` パスワードの指定」画面

「**インスタンス名**」: このインスタンスの名前を入力します。インスタンス名には、英数字および `_` (アンダースコア) を使用できます。1 つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例: `infra`

「**ias_admin パスワード**」および「**パスワードの確認**」: `ias_admin` ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは 5 文字以上で、そのうちの 1 文字は数字にする必要があります。

例 : welcome99

「**次へ**」をクリックします。

15. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「**インストール**」をクリックします。インストーラによって、ファイルがインストールされます。

16. root.sh の実行ダイアログ

注意 : このスクリプトは、ダイアログが表示されるまで実行しないでください。

別のウィンドウで root ユーザーとしてログインし、root.sh スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

root.sh スクリプトを実行した後で、「**OK**」をクリックします。

17. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、Oracle Application Server コンポーネントを構成する Configuration Assistant の進捗状況が表示されます。

18. 「インストールの終了」画面

「**終了**」をクリックして、インストーラを終了します。

40 Oracle Application Server クイック・インストレーション・ガイド

6.2 Portal and Wireless または Forms and Reports 中間層のインストール

次の手順を実行すると、Portal and Wireless または Forms and Reports 中間層がインストールされ、第 6.1 項「OracleAS Infrastructure のインストール」でインストールした OracleAS Infrastructure を使用するよう構成されません。

1. インストーラを起動します。詳細は、第 4 章「インストーラの起動」を参照してください。
2. 「ようこそ」画面
「次へ」をクリックします。
3. コンピュータに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、インストーラによって次の画面が表示されます。
 - a. 「インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定」画面

「インベントリ・ディレクトリのフルパスを入力してください」：インベントリ・ディレクトリへのフルパスを入力します。このディレクトリは、製品ファイル用の Oracle ホーム・ディレクトリとは異なります。

例: /opt/oracle/oraInventory

「オペレーティング・システム・グループ名の指定」：インベントリ・ディレクトリへの書込み権限を持つオペレーティング・システム・グループを選択します。

例: oinstall

「次へ」をクリックします。

b. orainstRoot.sh の実行ダイアログ

プロンプトが表示されたら、異なるシェルで **root** ユーザーとして `orainstRoot.sh` スクリプトを実行します。このスクリプトは、インベントリ・ディレクトリにあります。

スクリプトを実行した後で、「**続行**」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面

「名前」：この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例: OH_PORTAL

「パス」：インストール先のディレクトリへのフルパスを入力します。これは Oracle ホームです。インストール先ディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer によって作成されます。

例: /opt/oracle/oraPortal

「次へ」をクリックします。

5. 「インストールする製品の選択」画面

「**Oracle Application Server 10g**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

6. 「インストール・タイプの選択」画面

「**Portal and Wireless**」または「**Forms and Reports**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

7. 「製品固有の前提条件のチェック」画面

システムがこの画面に表示される要件を満たしていることを確認し、「**次へ**」をクリックします。システムが要件を満たしていない場合は、警告が表示されます。カーネル・パラメータを変更する必要がある場合は、「**再試行**」をクリックしても操作を続行できません。インストーラを終了して、インストールを再実行します。

8. 「インストール前の要件の確認」画面

この画面に表示される要件を満たしていることを確認して、すべてのチェック・ボックスを選択し、「**次へ**」をクリックします。

9. 「構成オプションの選択」画面

Portal and Wireless の場合は、次のものを選択します。

- **Oracle Application Server Portal**
- **Oracle Application Server Wireless**

Forms and Reports の場合は、次のものを選択します。

- **Oracle Application Server Portal**
- **Oracle Application Server Wireless**
- **Oracle Application Server Personalization**
- **Oracle Application Server Reports Services**
- **Oracle Application Server Forms Services**

「次へ」をクリックします。

10. 「ポート構成オプションの指定」画面

「自動」を選択し、「次へ」をクリックします。

11. Oracle Internet Directory の接続情報を入力します。Oracle Internet Directory は、OracleAS Infrastructure のインストール時にインストールされます。

a. 「Oracle Internet Directory への登録」画面

「**ホスト名**」：Oracle Internet Directory を実行しているコンピュータの名前を入力します。

「**ポート**」：Oracle Internet Directory がリスニングしているポートのポート番号を入力します。Oracle Internet Directory のポート番号は、ORACLE_HOME/install/portlist.ini ファイルを確認します。ORACLE_HOME は、OracleAS Infrastructure のインストール先です。

「**Oracle Internet Directory** には **SSL 接続のみ使用**」を選択した場合は、portlist.ini ファイル内の Oracle Internet Directory (SSL) パラメータからポート番号を取得する必要があります。

「**次へ**」をクリックします。

b. 「OID ログインの指定」

「**ユーザー名**」: orcladmin と入力します。これは、Oracle Internet Directory 管理者の名前です。

「**パスワード**」: orcladmin ユーザーのパスワードは、インフラストラクチャの ias_admin ユーザーのパスワードと同じです。このパスワードは、インフラストラクチャをインストールしたときに入力したものです (第 6.1 項「[OracleAS Infrastructure のインストール](#)」の手順 14 を参照)。

「**次へ**」をクリックします。

12. 「Oracle Application Server 10g Metadata Repository の選択」画面

「**リポジトリ**」: この中間層インスタンスで使用する OracleAS Metadata Repository を選択し、「**次へ**」をクリックします。

13. 「送信メール・サーバー情報の指定」

この画面は、Forms and Reports インストールを選択した場合にのみ表示されます。

OracleAS Reports Services に使用する送信メール (SMTP) サーバー名を入力します。空白のままにして、後で設定できます。「次へ」をクリックします。

14. 「インスタンス名と `ias_admin` パスワードの指定」画面

「**インスタンス名**」: このインスタンスの名前を入力します。インスタンス名には、英数字および `_` (アンダースコア) を使用できます。1 つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例: PORTAL

「**ias_admin パスワード**」および「**パスワードの確認**」: `ias_admin` ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは 5 文字以上で、そのうちの 1 文字は数字にする必要があります。

例: welcome99

「次へ」をクリックします。

15. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「インストール」をクリックします。インストールによって、ファイルがインストールされます。

16. root.sh の実行ダイアログ

注意：このスクリプトは、ダイアログが表示されるまで実行しないでください。

別のウィンドウで root ユーザーとしてログインし、root.sh スクリプトを実行します。スクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

root.sh スクリプトを実行した後で、「OK」をクリックします。

17. 「コンフィギュレーション・アシスタント」画面

この画面には、Oracle Application Server コンポーネントを構成する Configuration Assistant の進捗状況が表示されます。

18. 「インストールの終了」画面

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

7 「ようこそ」 ページへのアクセス

インストールの後に Oracle Application Server の「ようこそ」 ページにアクセスして、インストールに成功したことを確認します。「ようこそ」 ページの URL は、次のとおりです。

```
http://hostname.domainname:http_port
```

ORACLE_HOME/install/portlist.ini ファイルを確認して、*http_port* を特定します。このポートは、「Oracle HTTP Server listen port」行に表示されます。

注意： 1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがインストールされている場合は、各インスタンスが独自のポート番号のセットを持っています。正しい Oracle ホーム・ディレクトリの portlist.ini ファイルを確認し、必ず正しいポート番号を使用してください。

「ようこそ」 ページには、次のような役立つページへのリンクが含まれています。

- Oracle Application Server 10g リリース 2 (10.1.2) の新機能
- Oracle Enterprise Manager Application Server Control (Application Server Control)。これは、ブラウザベースの管理ツールです。

- リリース・ノート
- 次の操作
- デモ

8 既存の Oracle データベースへの OracleAS Metadata Repository のインストール

OracleAS Metadata Repository を既存の Oracle データベースにインストールする場合は、Oracle Application Server Metadata Repository Creation Assistant と呼ばれるツールを実行します。

Oracle Application Server Metadata Repository Creation Assistant は、OracleAS Metadata Repository Creation Assistant の CD-ROM に格納されています。

このツールの使用方法の詳細は、Oracle Application Server Metadata Repository Creation Assistant のユーザーズ・ガイドを参照してください。

9 追加情報

この項では、次の内容について説明します。

- [製品のライセンス](#)
- [オラクル社カスタマ・サポート・センターへのお問合せ](#)
- [製品マニュアルの入手方法](#)

製品のライセンス

このメディア・パックに含まれている製品は、トライアル・ライセンス契約に基づき、30日間、インストールおよび評価できます。ただし、30日間の評価期間後もいずれかの製品の使用を継続する場合、プログラム・ライセンスをご購入いただく必要があります。

オラクル社カスタマ・サポート・センターへのお問合せ

Oracle 製品サポートをご購入いただいた場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに、年中無休で24時間いつでも、お問い合わせいただけます。Oracle 製品サポートの購入方法、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡方法の詳細は、オラクル社カスタマ・サポート・センターの Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

製品マニュアルの入手方法

Oracle 製品のマニュアルは、HTML および Adobe 社 PDF 形式で提供されており、入手方法がいくつかあります。

- メディア・パック内のディスク：
 - プラットフォーム固有のマニュアルは、製品ディスクに含まれています。マニュアルにアクセスするには、**CD-ROM** のトップレベル・ディレクトリにある `welcome.htm` ファイルを参照してください。
- Oracle Technology Network Japan の Web サイト：
<http://otn.oracle.co.jp/document/>

PDF ドキュメントを表示するには、必要に応じて、Adobe 社の Web サイトから、無料の Adobe Acrobat Reader をダウンロードしてください。

<http://www.adobe.com/>

10 その他の情報

クイック・リファレンス

リソース	連絡先 / Web サイト
開発者向けのテクニカル・リソースにアクセスできます。	http://otn.oracle.co.jp/
インストール・マニュアルにアクセスできます。	http://otn.oracle.co.jp/tech/install/
サポート・サービスに関する情報にアクセスできます。	http://www.oracle.co.jp/support/
日本オラクル技術営業の連絡先です。	0120-155-096 (受付時間等の詳細は後述します。)

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

オラクル製品のインストールに関する情報

オラクル製品のインストールに関する情報およびマニュアルを提供しています。

次の URL を参照してください。ただし、個々の環境に依存する問題または検証が必要となるようなケースでは、サポート・サービス（有償）の契約が必要になりますのでご了承ください。

OTN インストール・センター

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「テクノロジーセンター」 → 「インストール」

Oracle Technology Network 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「掲示板」 → 「ビギナー」の「初心者部屋」

インストレーション・ガイド・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「ドキュメント」 → 「製品名」 → 「OS」

製品 FAQ 検索

<http://support.oracle.co.jp/>

「Oracle Internet Support Center」 → 「製品 FAQ 検索」

キーワード: 「インストール」、「install」など

これらのキーワードを参照しても解決されないインストール時の不明点または問題点については支援サービスを提供しています。次のオラクル製品が対象になりますので次の URL から質問してください。

http://www.oracle.co.jp/install_service/

- 対象製品：
 - Oracle Database Standard Edition
 - Oracle Database Personal Edition
 - Oracle9i Application Server Java Edition
 - Oracle Application Server 10g Java Edition
- 対象 OS:
 - Linux x86
 - Microsoft Windows

Oracle Technology Network Japan

OTN Japan は開発者に必要な技術リソースを提供する登録制、日本オラクル公式技術サイトです。OTN Japan に登録（無償）していただくと、技術資料、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・ダウンロード、サンプル・コード、掲示板、ポイント・プログラム、オラクル関連書籍のディスカウント、OTN 有償プログラムなど様々なサービスを受けることができます。

□ OTN Japan 登録方法

<http://otn.oracle.co.jp/>

この URL から「OTN の歩き方」を参照してください。

□ 技術資料

<http://otn.oracle.co.jp/products/>

オラクル製品の最新情報を提供します。目的とする技術資料を容易に参照できるわかりやすいカテゴリになっています。

□ ソフトウェア・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/software/>

オラクル製品のトライアル版、早期アクセス版、ユーティリティ、ドライバなどを無償でダウンロードできます。最新バージョンをタイムリに掲載していますので、OTN Japan で提供している技術資料、ドキュメント等とあわせて使用することにより、いち早く最新のオラクル・テクノロジーを体験できます。

□ ドキュメント

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

オラクル製品のインストレーション・ガイド、リリース・ノート等のドキュメント（マニュアル）を掲載しています。製品に同梱されているドキュメントから有償マニュアルにいたるまで、最新のドキュメントをタイムリに掲載しています。

□ サンプル・コード

http://otn.oracle.co.jp/sample_code/

開発者に参考としていただけるよう、プログラムのサンプルを掲載しています。オラクル最新テクノロジーに準拠したサンプル・プログラムの数々をお役立てください。

□ 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/forum/>

オラクル製品を使用して開発される皆様のためのコミュニティです。**Web** によるディスカッション・フォーラム（掲示板）を通して、オラクル開発者間での情報交換ができます。それぞれの開発ノウハウを共有することで、より効率的な開発ができます。**OTN** 掲示板専用のビューア「**OTN Viewer**」も使用していただけます。

□ ポイント・プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/point/index.html>

OTN Japan 活性化に貢献された会員の皆様にポイント進呈する **OTN** ポイント・プログラムを設けています。獲得ポイントは **OTN** グッズと交換したり、掲示板投稿時の懸賞ポイントとして使用できます。

□ OTN 有償プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/upgrade/index.html>

OTN 有償プログラムは、OTN 会員の皆様向けの有償アップグレード・サービスです。OTN Japan サイトで提供している無償サービスに加え、最新のオラクル製品を開発ライセンスで使用していただける OTN Software Kit (日本語版 CD-ROM) の送付やオラクル技術書籍ご購入時のディスカウントなど、有償ならではの様々なサービスを提供します。

□ お薦めサービス「SQL 構文検索サービス」

<http://otn.oracle.co.jp/document/sqlconst/>

SQL 文や SQL 関数をオンラインで参照できる SQL 構文検索サービスです。

□ お薦めサービス「エラー・メッセージ検索 (Oracle9i)」

<http://otn.oracle.co.jp/document/msg/>

オラクル製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて検索できます。

□ お薦めサービス「TechBlast メールサービス」

<http://otn.oracle.co.jp/techblast/>

OTN Japan では、配信を希望された会員の皆様へほぼ月に 1～2 回メールをお送りしています。新着情報のほか、会員の皆様には是非ともお知らせしたいセミナーやイベント情報、製品や最新技術に関する連載を掲載しています。

OracleDirect

OracleDirect では、電話とインターネットを通じて、製品ご購入前のオラクル製品に関するご質問をはじめとする、お客様からの様々なお問合せに対応いたします。

OracleDirect に関する詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/contact/>

□ お問合せ先

TEL: 0120-155-096

FAX: 03-4326-5020

Web 問合せ: <http://www.oracle.co.jp/contact/>

受付時間: 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

また、OracleDirect にてお受けできるご質問内容は次のとおりとなりますので、ご連絡の前に確認をお願いいたします。

□ ご質問にお答えできる内容 (概要)

- 製品に関して日本国内で公表されている一般的な内容
 - 出荷日、出荷予定日
 - 価格およびライセンス
 - システム要件
 - ハードウェア (メモリ容量、ディスク容量)

- ソフトウェア（対応 OS、対応コンパイラなど）
 - 製品の基本機能（カタログに記載されているレベルまで）
 - 製品バージョン（RDBMS、Net 等の接続対応バージョンの案内）
 - サポート・サービス契約の概要
サポート・サービス契約の照会、確認、お見積もりはディ
ストリビューションセンターまでお願いいたします。
- カatalog、資料請求、セミナー内容に関するお問合せ
 - お客様の個別環境への提案
 - 製品概要の説明や応用例、システム構成について営業担当者へ
の直接相談

次のお問合せにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

- マニュアルに関すること（オンライン・マニュアルも含む）
- 国内未発表の内容（日本オラクルが正式に公表した内容以外のもの）
- 他社から販売されているオラクル関連製品に関するお問合せ
- 技術的な内容（テクニカルサポート・レベル）

サポート・サービス

オラクルではお客様のシステムの健康状態を維持するために、Oracle Support Services をご用意しています。オラクル製品の専門技術者が、様々な形でお客様の問題解決のお手伝いをいたします。

- 障害回避策提示
- 修正プログラムの提供
- インターネット・サポート
- 技術情報の提供など

Oracle Support Services のサポート・サービス契約をお持ちのお客様は、次の技術サポートを受けられます。サポート・サービスには電話やインターネットによる技術サポートのほか、インターネット上での各種技術情報へのアクセス、ご契約済み製品のバージョンアップ用メディアの提供、Oracle Support NewsLetter（毎月）の提供などが含まれます。

□ 技術サポート

ご契約のお客様は、インターネットおよび電話による技術サポートを受けられます。お問合せは、毎日 24 時間受け付けております。お問合せの方法についての詳細は、初回ご契約時にお送りする「Oracle Support User's Guide」をご覧ください。

インターネットでは、次の Web サイトで Oracle Support Services について紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

□ OiSC (Oracle internet Support Center)

サポート・センターでは、24 時間ご利用いただけるポータル Web サイトとして OiSC をご用意し、お客様に役立つサポート・サービス関連情報を提供しています。

- サポート関連の新着情報
- インターネット上での Oracle Support NewsLetter の参照
- パッチのダウンロード
- お問い合わせの受付、更新、状況確認
- 後述の MetaLink へのリンク
- サービス内容のご紹介

□ KROWN

ディレクトリ・サービスやキーワード検索サービスを備えた、25,000 タイトル以上からなる技術情報です。前記 OiSC からご利用ください。

□ MetaLink

Oracle Support Services をご契約のお客様は、Web によるサポート・サービスである MetaLink を 24 時間ご利用いただけます。MetaLink は、全世界から集められた英語での技術情報が収録されている知識ベースです。インターネット上でご覧いただけます。

□ Oracle Support NewsLetter

毎月更新されるサポート技術情報や、新しいバージョンの製品情報などを Email または Web でお届けします。Oracle Support NewsLetter には以下の情報が掲載されています。

- 毎月の新着情報
- 技術情報（Q&A、Oracle User バックナンバーなど）
- お客様へのご案内
- Oracle Support NewsLetter は OiSC でもご覧いただけます。

□ お問い合わせ先

日本オラクル株式会社 ディストリビューションセンター

TEL: 0570-093812

受付時間：9:00～12:00、13:00～17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

ディストリビューションセンターでは、Oracle Support Services のサポート・サービス契約について、次のような情報をご案内いたします。

- 新規サポート・サービス契約に関するご相談
- サポート・サービス契約に基づくサービス内容のご紹介
- サポート・サービス契約書の記入方法
- サポート・サービス料金について

または、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

研修サービス

日本オラクルの研修サービスに関する詳しいお問合せは次までお願いいたします。研修サービスに関する詳細は、次の **Web** サイトでもご紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

□ お問合せ先

日本オラクル株式会社 オラクルユニバーシティ

TEL: 0120-155-092

FAX: 03-5766-4400

受付時間：9:00～12:00、13:00～17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

11 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

